令和５年１０月１９日
総合教育会議　資料１

# 博物館のテーマと活動の基本方針

**新しい博物館のテーマ**

## 「大地と人の物語」

「海と川と道が交じり合う茅ヶ崎の大地と、その中で連綿と続いてきた人びとのくらしとその物語を**市民とともに探求し、守り、生かす**」

## 活動の基本方針　「市民・利用者とともに考え、活動し、成長する資料館」

調査研究・収集保管・教育普及をとおして、高度な専門性を常に維持しつつ、これを基礎に、**市内外の多様な主体とともに活動**

| | |
|---|---|
| **全ての活動を市民・利用者に開く** | 調査研究、収集保管、教育普及の活動を相互に結びつけ、それらの全てを市民・利用者に開き、協力と連携により進めます。 |
| **地域に根差しながら、茅ヶ崎市域を超えた活動を展開** | 地域の博物館として地域に根差した活動に取り組みます。その一方で、地域遺産の探求や発信に当たっては市域を超えて活動を展開します。 |
| **総合的な観点で活動** | 自然と歴史・文化をさまざまな学問分野から横断的に扱うことにより総合的な観点から捉えます。専門的な知識の有無にかかわらず、市民・利用者の一人ひとりの関わり方、興味や関心のあり方に応じ、それぞれの立場で学ぶことができる活動を展開します。 |
| **より多くの人が訪れるための活動** | 来館したことのない人、存在を知らない人、資料館に関心のない人に対してもわかりやすく親しみのある広報活動などを行い、新たな利用の輪を広げていきます。 |

令和５年１０月１９日
総合教育会議　資料１

# 茅ヶ崎版デジタルアーカイブのイメージ

## 茅ヶ崎版デジタルアーカイブ

それぞれが持つ資料をデジタル化し、ひとつのデータベースに搭載。
キーワードや分野で、所有するデータを検索できるように設える。
構築後、ジャパンサーチと連携し、全国・海外からも検索しやすいようにする。

**博物館**
土器、石器、標本、写真など

**図書館**
市報、浮世絵、絵葉書、地図など

**市史編さん**
写真、刊行物など

**（美術館）**
絵画、版画、彫刻など

データ連携

資料検索

JAPAN SEARCH

国内のデジタルアーカイブをつなぎ、
資料を検索できるWebサイト

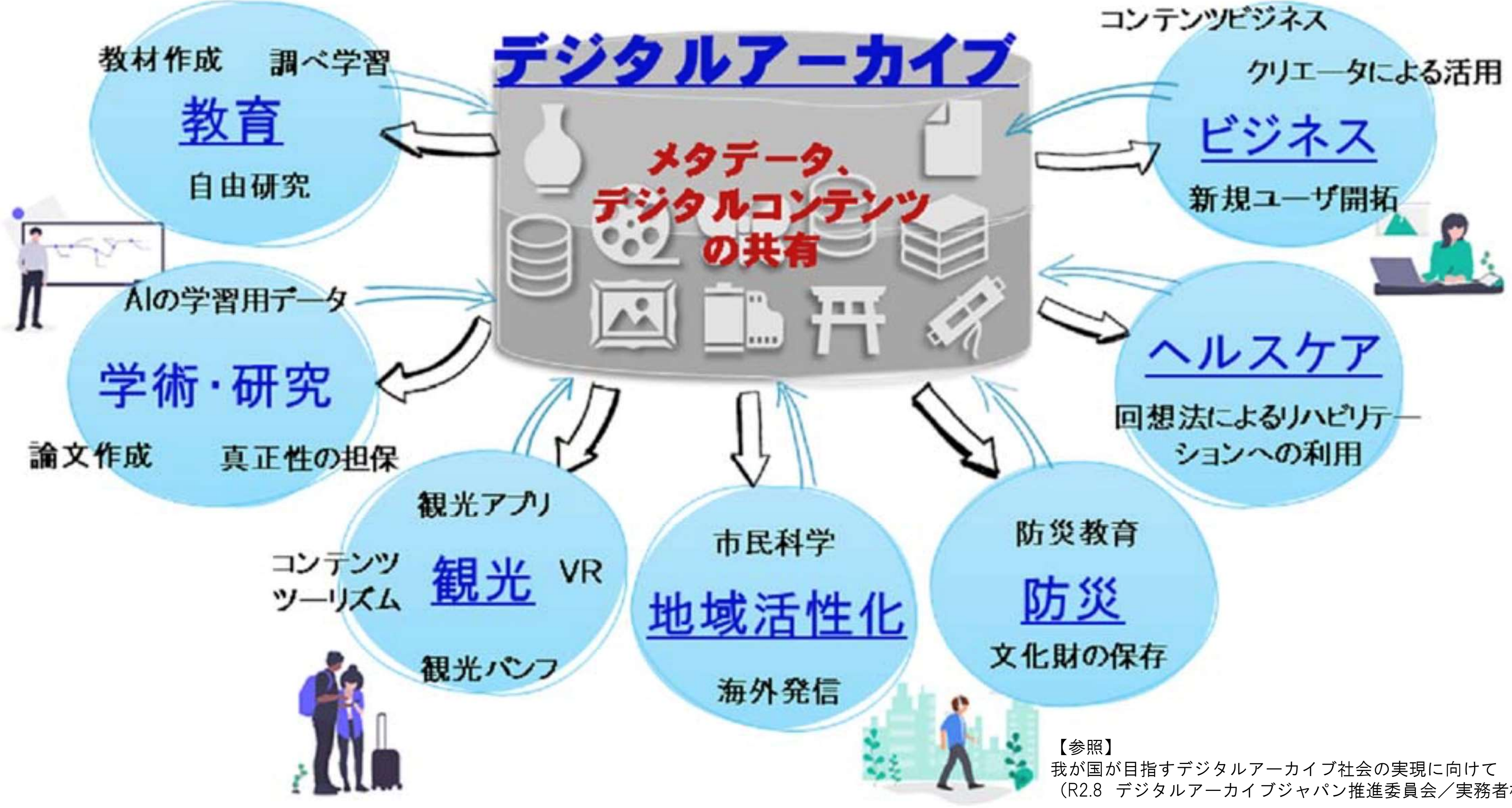
資料検索

スマホやＰＣから、茅ヶ崎版デジタルアーカイブやジャパンサーチにアクセスし、資料を検索

# デジタルアーカイブとは

令和５年１０月１９日
総合教育会議　資料１

**社会が持つ知、文化的・歴史的資源を共有し、将来の知的活動を支える社会基盤**であり、その「構築・共有」と「活用」の推進は、文化の保存・継承・発展だけでなく、**コンテンツの二次的利用や国内外への情報発信の基盤となる取組**




【参照】
我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて
（R2.8　デジタルアーカイブジャパン推進委員会／実務者検討委員会）

# 事業の効果

**強靭化対策**

・首都直下型地震など本市に大きな被害をもたらす大規模災害に備え、市が所有する知的財産を保護し、復旧・復興に向けた準備。（事前復興）
・新たな感染症のまん延など、自宅においても児童生徒の学習などが継続できる準備。（事業継続、教育）
・風水害などの一時避難所となる公民館等で、避難者が災害情報等をインターネットで取得できるようにする。（防災）
・災害時の電話回線の輻輳に備え、避難者情報などを市統括調整部を伝達しやすくする。（防災）

**事務改善**

・資料を一般公開することにより、電話・メールでの資料に関する問い合わせの削減
・資料登録・整理のルールを標準することによる事務の効率化

**２次利用を促したい**

**知的財産の活用**

・市内の小中学校における総合的な学習の時間、社会科などで行う郷土学習に活用（学校教育）
・社会教育施設における主催講座や博物館の出前講座などに活用（社会教育）
・市外居住者へ茅ヶ崎の魅力を伝える施策に活用（シティプロ）
・周遊マップ、地域情報サイトなどに掲載されるオススメスポットの情報（シティプロ・観光、企業）
・大学などの研究機関における郷土史研究に活用（大学など）

・ＡＲなどのデジタルを使った体感型講座を重点におき展開し、博物館の来館者や館の活動の協力者を増加させる。また、施設利用の満足度を上げる。

・公民館等にWi-Fiを整備することで、児童生徒のタブレット端末で使った学習の場を確保する。

・誰もが利用できるような情報基盤をすることで、観光、防災、まちづくりなど市の施策や大学が行う研究活動の一助となる。